

農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

1 いもち病

(1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176 圃場）では、発生圃場率、上位3葉における発生圃場率ともに、平年より低かった（図1、2）。

(2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74 圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は平年より低かった（図3）。

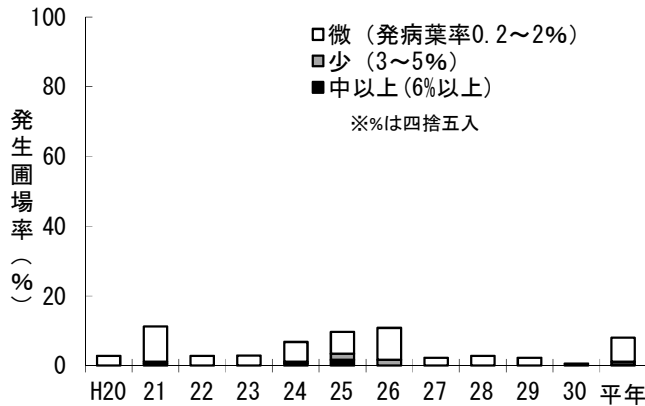


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移 (8月上旬)

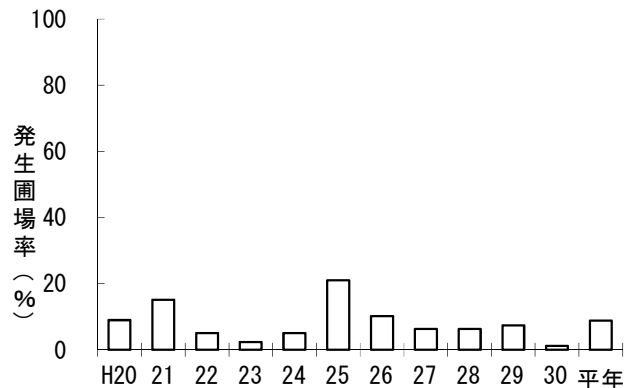


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率 (8月上旬)

(参考) 病害虫防除員による葉いもち調査結果

地方協議会	調査日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 ¹⁾ (%)
江刺	7/27	60	10.0	0.3
胆沢	7/24~30	142	26.1	1.8
二戸	8/8	66	10.6	1.9
久慈	8/10	45	13.3	2.0

1) 発病株数を調査した地域のみ集計

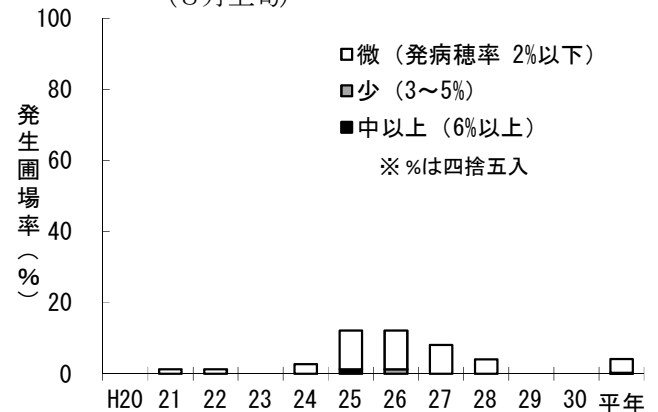


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

2 紋枯病

(1) 8月上旬、下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった（図4、5）。

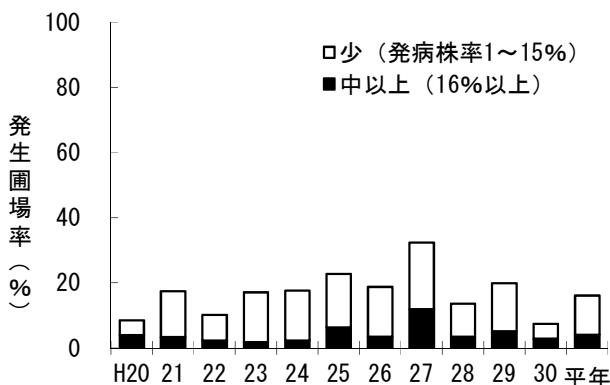


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移 (8月上旬)
※病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

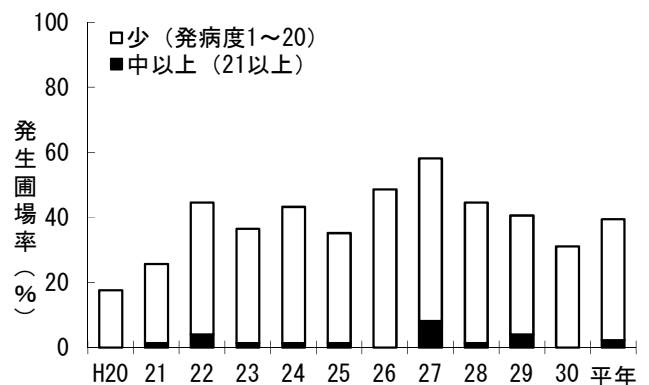


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移 (8月下旬)
※病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図6)。

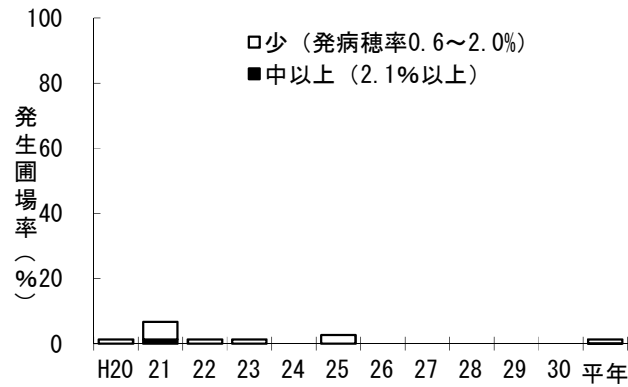


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移(8月下旬)

4 その他病害

(1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。

5 斑点米カメムシ類

(1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった(図7)。

(2) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった(図8)。

(3) 定点圃場(北上市)におけるすくい取り調査では、8月第3半旬にアカスジカスミカメのピークが見られた(図9)。

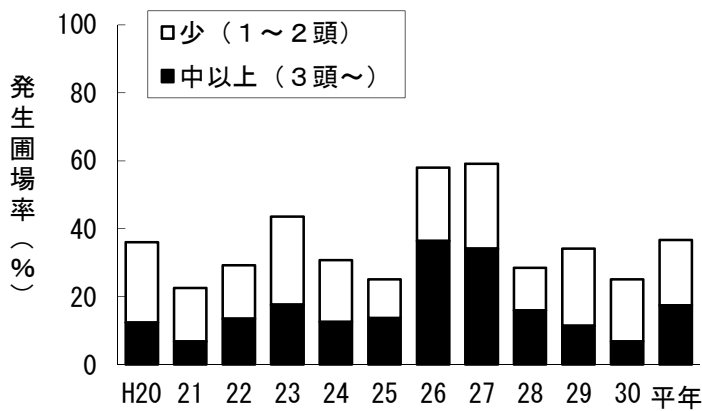


図7 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移
(8月上旬、本田すくい取り、往復20回振)

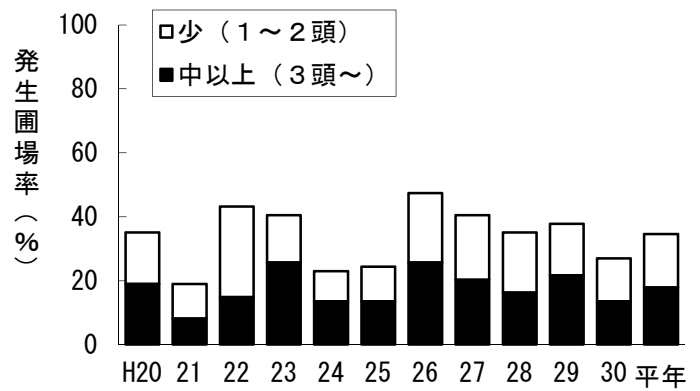


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移
(8月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

(参考) 病害虫防除員による斑点米カメムシ本田すくい取り調査結果

地方協議会	調査日	調査筆数	発生筆数	発生圃場率 (%)
江刺	7/27	30	7	23.3
胆沢	7/26~7/30	28	16	57.1
北上	8/8	10	1	10.0
花巻	8/3	11	1	9.1
二戸	8/8	66	13	19.7
久慈	8/10	45	13	28.9

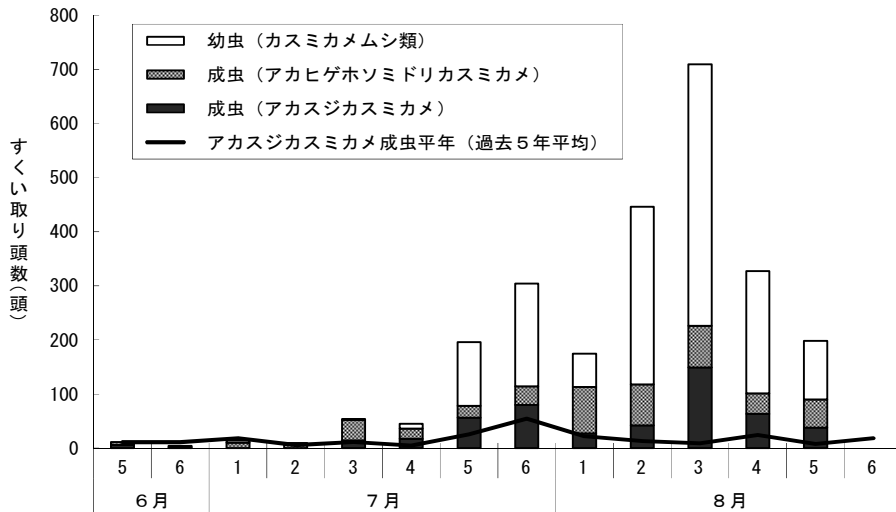


図9 定点圃場における斑点米カメムシ類の発生推移 (北上市成田、イタリアンライグラス、すくい取り往復20回振)

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、平年より低かった (図10左)。

(2) ヒメトビウンカ

8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、平年よりやや高かった (図10右)。

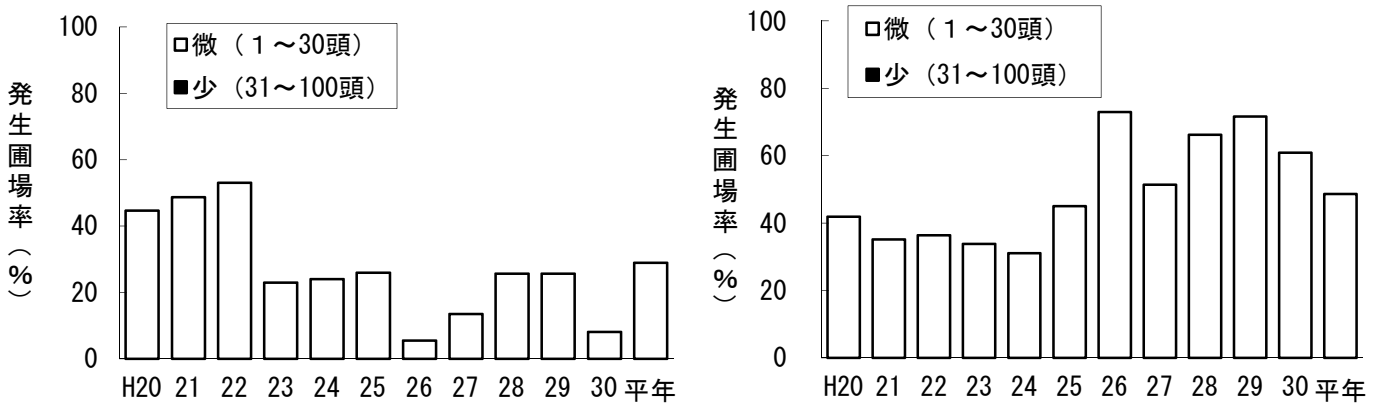


図10 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

(左: セジロウンカ、右: ヒメトビウンカ、8月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

7 イナゴ類

(1) 8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、平年より高かった (図11)。

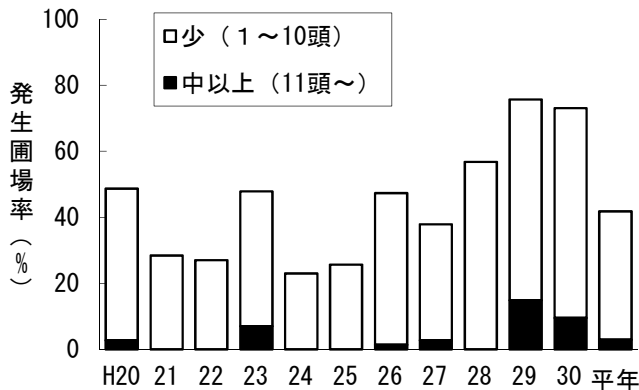


図11 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移

(8月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月のすくい取り調査では確認されなかった。

農作物病害虫発生現況情報（8月） りんご編

1 斑点落葉病

(1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじ、王林ともに平年よりも高かった（図1）。

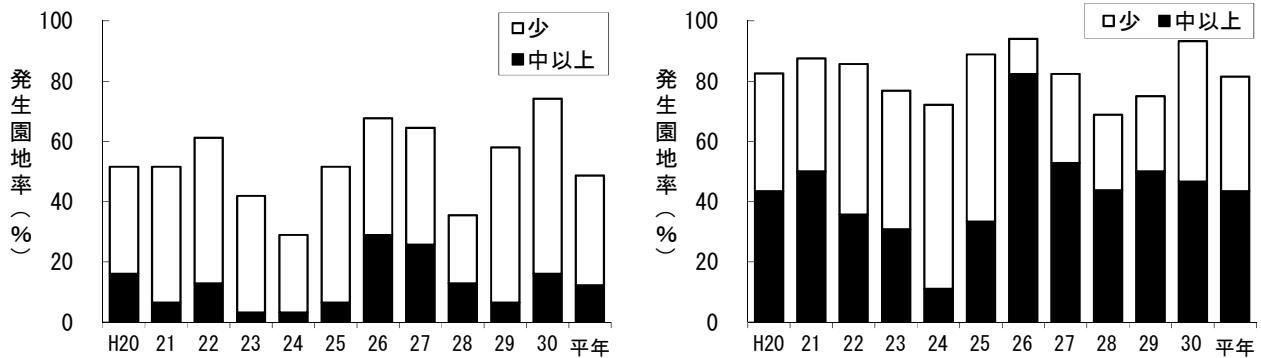


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、8月後半、徒長枝上位10葉）

2 褐斑病

(1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高かった（図2）。

(2) 8月前半に発生園地率が高くなった（図3）。

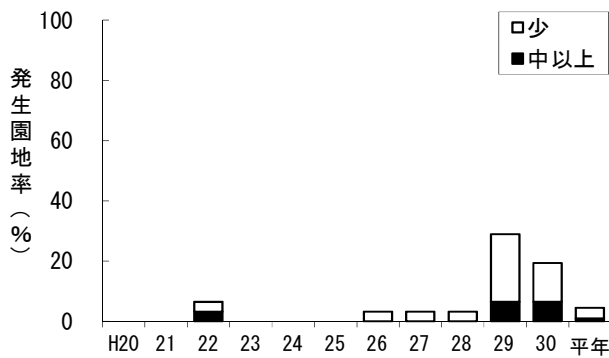


図2 褐斑病の発生園地率の年次推移（8月後半）

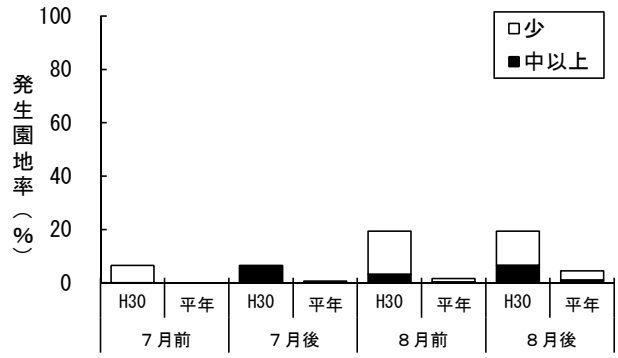


図3 褐斑病の発生園地率の時期別推移

3 黒星病

(1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年よりも高かった（図4）。

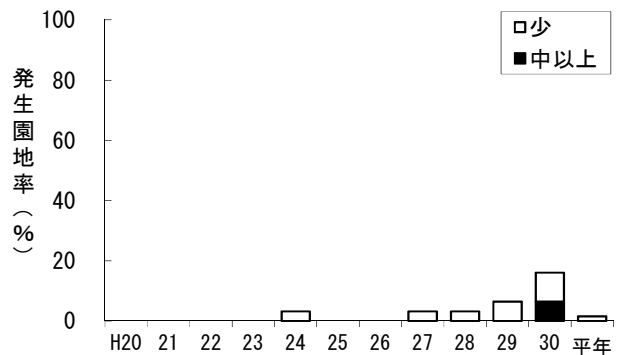


図4 黒星病の発生園地率の年次推移（8月後半、徒長枝葉）

4 リンゴハダニ

(1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高かった(図5、6)。

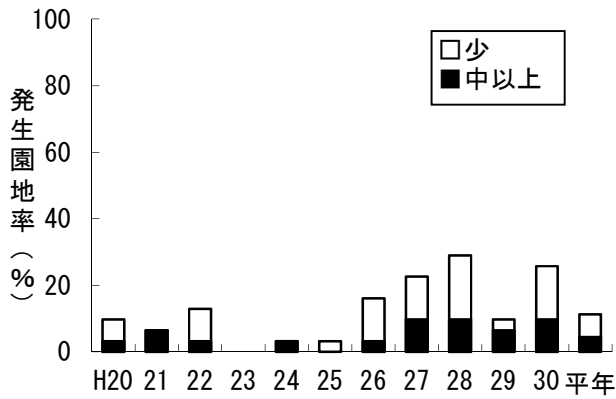


図5 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (8月後半、目通り)

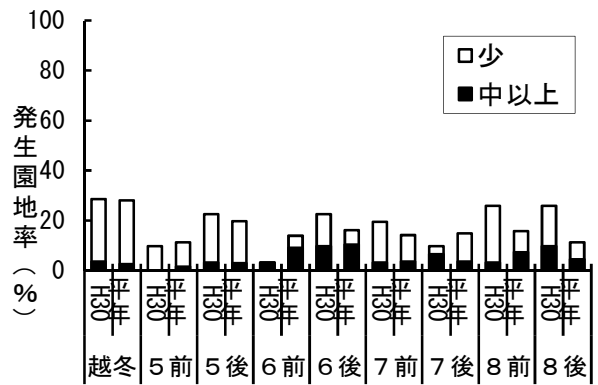


図6 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

5 ナミハダニ

(1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年よりやや高かった(図7、8)。

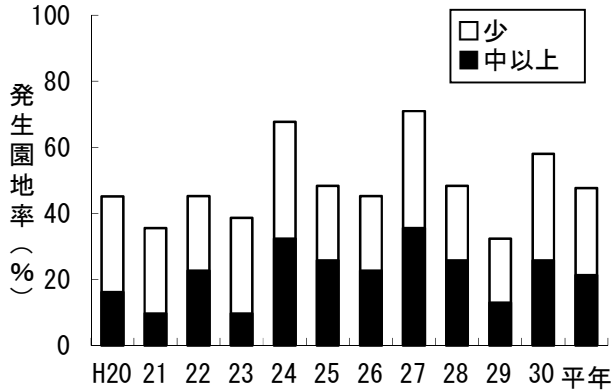


図7 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (8月後半、目通り)

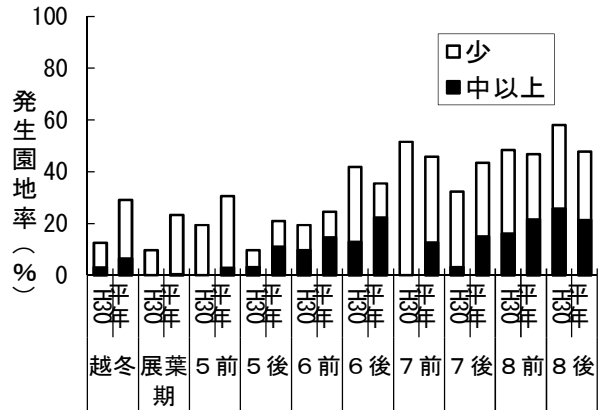


図8 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

6 ハマキムシ類

(1) 8月前半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図9)。

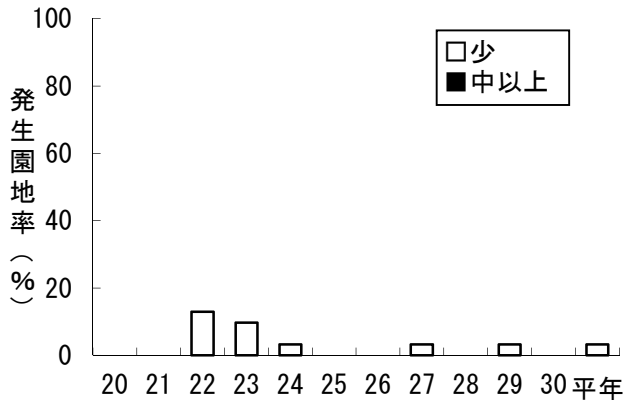


図9 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

7 キンモンホソガ

(1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は、平年より低かった(図10)。

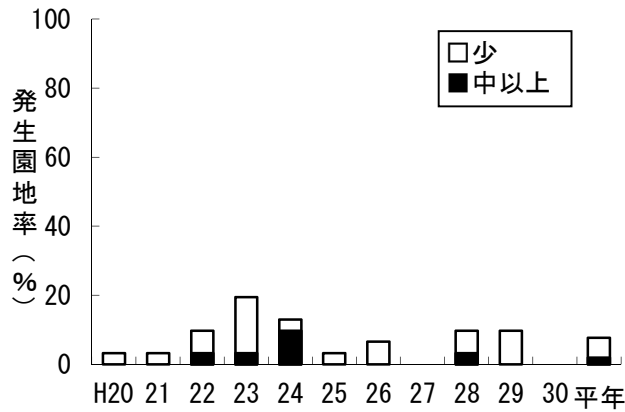


図10 キンモンホソガの発生園地率の年次推移(8月後半)

8 果樹カメムシ類

(1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は、平年よりやや高かった(図11)。

(2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、7月上旬から中旬にかけて平年よりやや多く、7月下旬以降は平年を下回った(図12)。

(3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なかった(図13)。

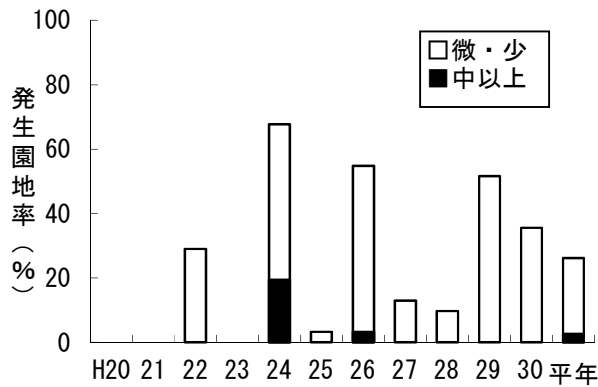


図11 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移(8月後半)

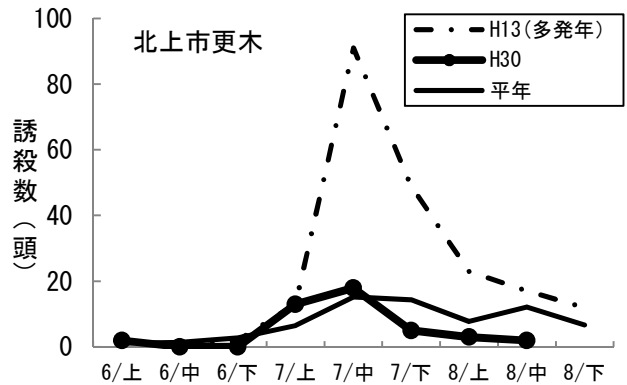


図12 北上市更木におけるクサギカメムシの予察灯への誘殺状況

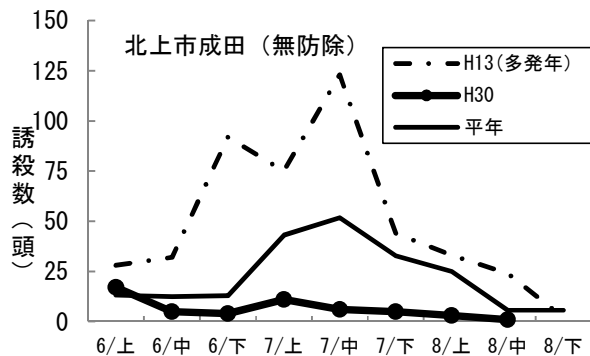


図13 無防除圃場におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況(北上市成田)

農作物病害虫発生現況情報（8月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、程度の高い圃場は見られなかった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低く、程度の高い圃場は見られなかった（図2）。

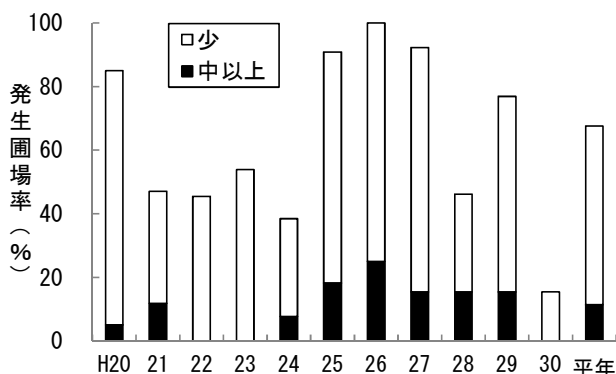


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

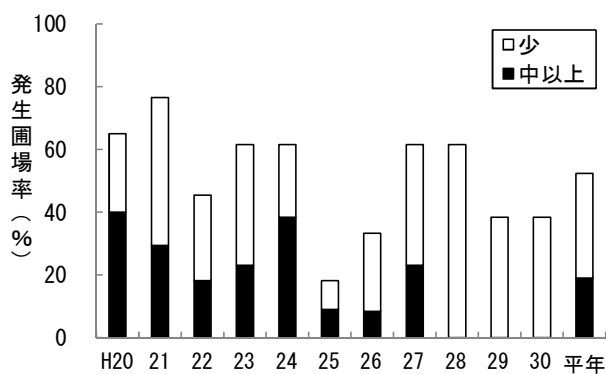


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

3 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった（図3）。

4 炭疽病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並で、程度の高い圃場は見られなかった（図4）。

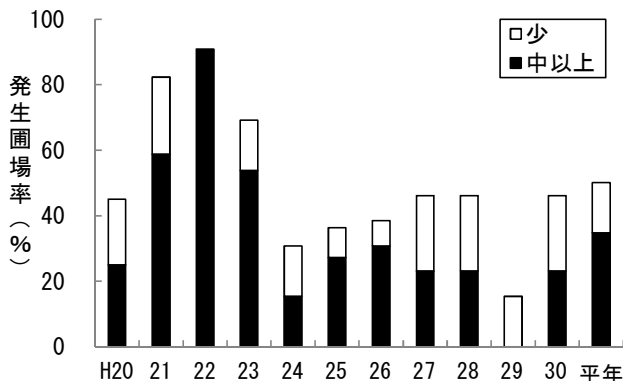


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

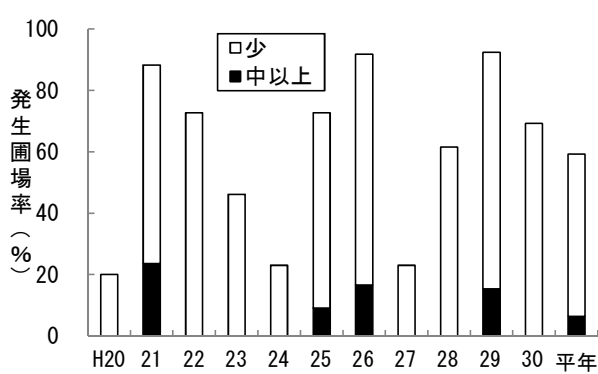


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

5 斑点細菌病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった（図5）。

6 黒星病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった（図6）。

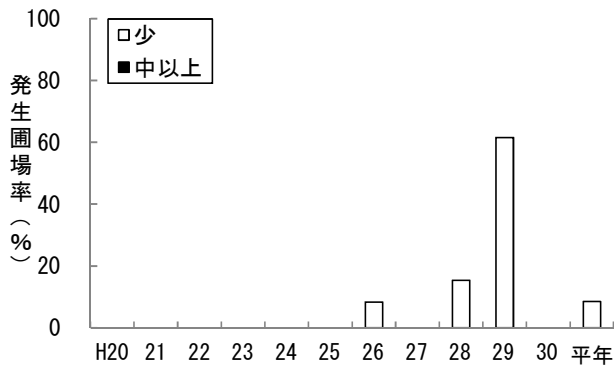


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

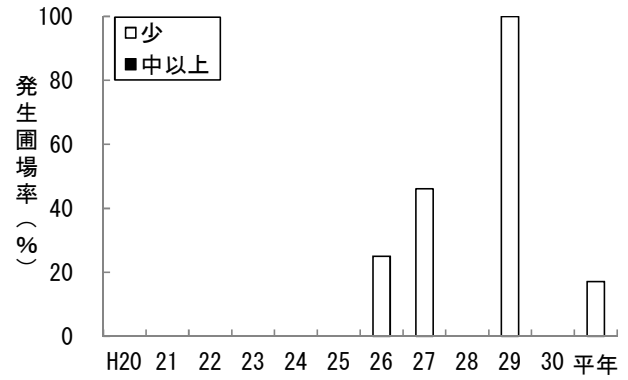


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった (図7)。

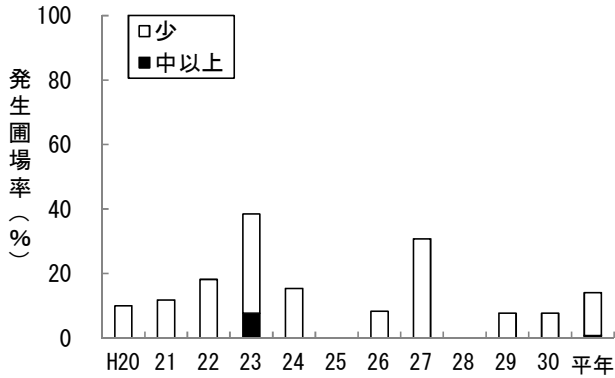


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（8月）キャベツ編

岩手県病害虫防除所

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、おおむね平年より少なく推移した（図1）。
- (2) 8月中旬の巡回調査では、幼虫発生圃場率は平年並であった（図2）。

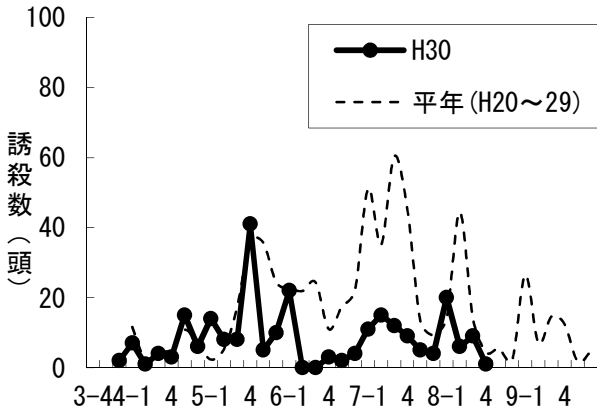


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガの誘殺状況

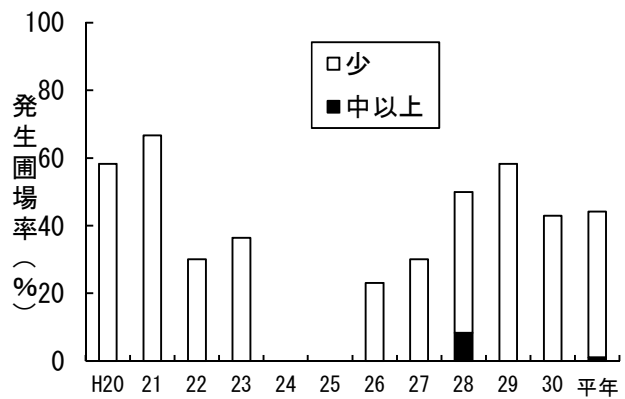


図2 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）※H24、25は欠測

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (2) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低かった（図4）。

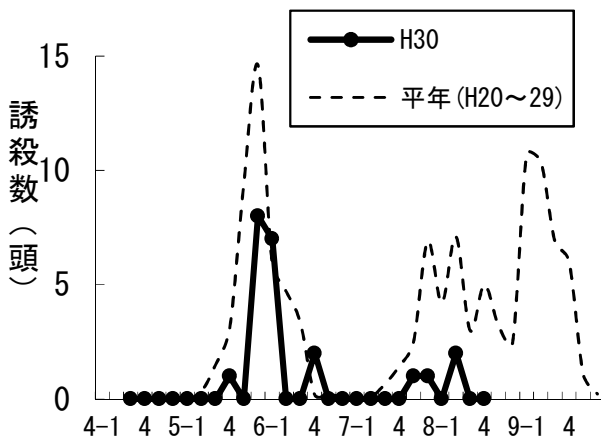


図3 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

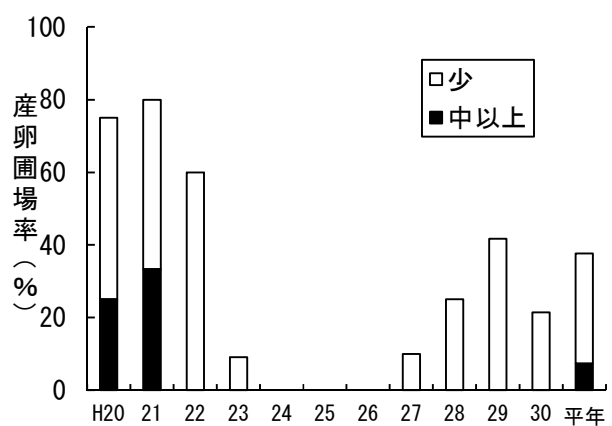


図4 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）※H24、25は欠測

3 ウワバ類

(1) 8月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図5)。

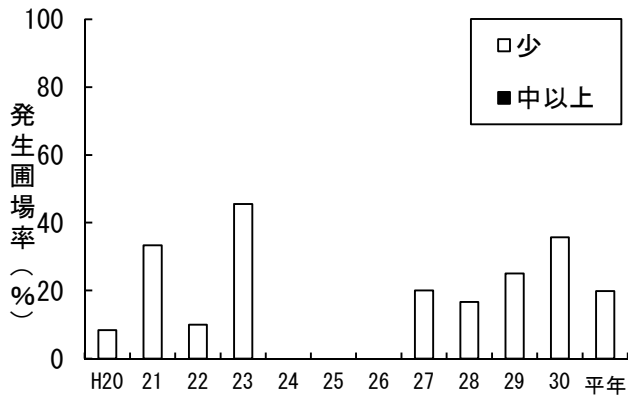


図5 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移
(8月中旬) ※H24、25は欠測

4 モンシロチョウ

(1) 8月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図6)。

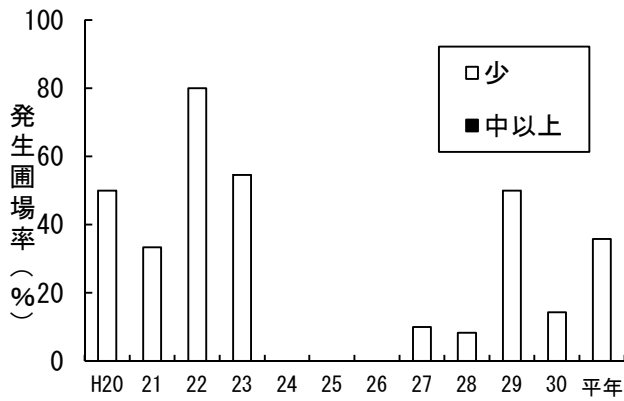


図6 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移
(8月中旬) ※H24、25は欠測

農作物病害虫発生現況情報（8月） ねぎ編

1 さび病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図1）。

2 べと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図2）。

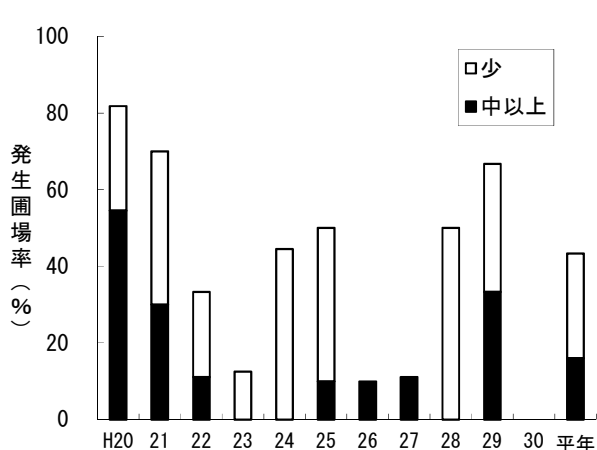


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

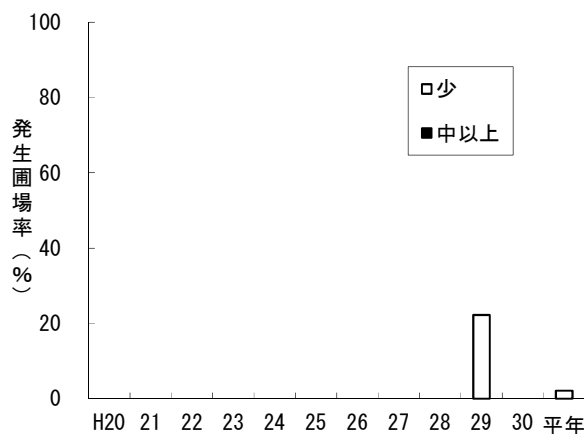


図2 べと病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

3 黒斑病、葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並であった（図3）。

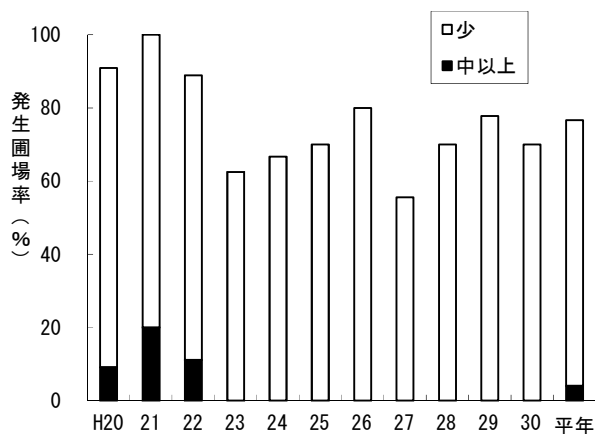


図3 黒斑病、葉枯病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

4 ネギコガ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高く、一部の圃場では発生程度が高かった(図4)。

5 ネギハモグリバエ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図5)。

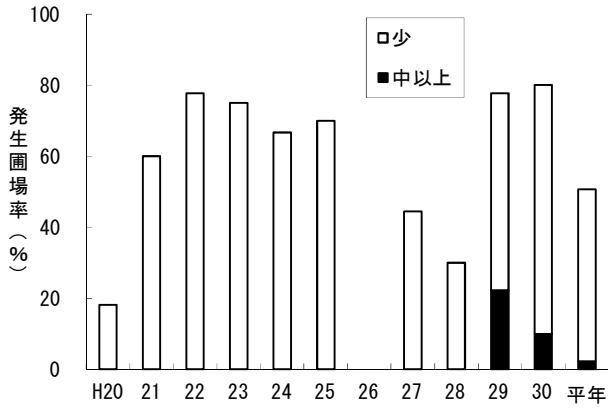


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

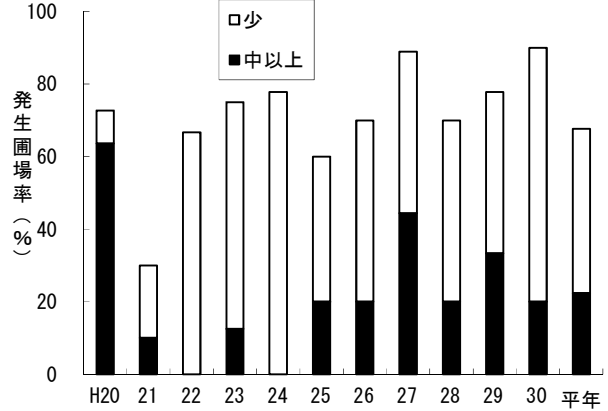


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

6 ネギアザミウマ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図6)。

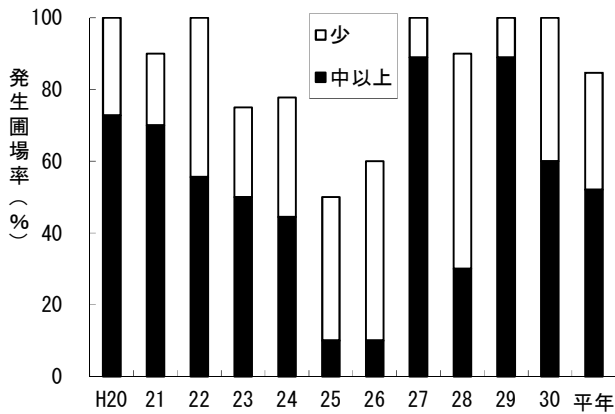


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、一部程度の高い圃場が見られるものの発生圃場率は平年よりやや低く、採花部での発生が見られる圃場は平年並であった（図1）。

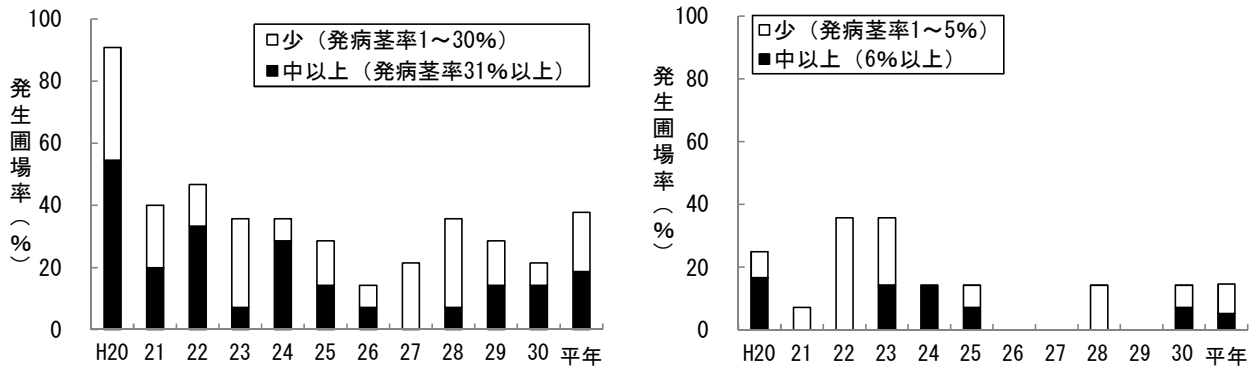


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、8月下旬）

2 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、一部圃場で発生が確認された（図2）。

(2) 早生品種では、8月上旬から甚発生となっている圃場も見られた。

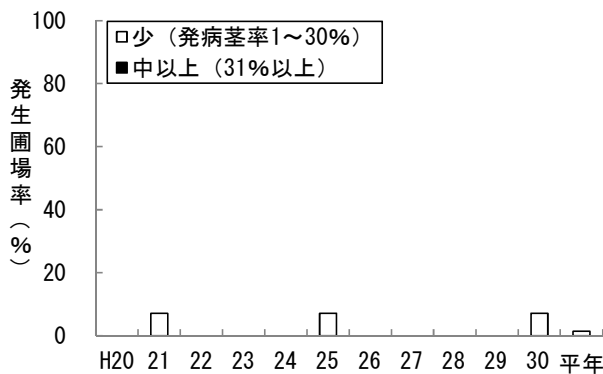


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

3 花腐菌核病

(1) 特定圃場（八幡平市瀬ノ沢）では、8月第6半旬から子実体IV型が見られ始めている。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。

4 ハダニ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並で、一部程度の高い圃場が見られた(図3)。

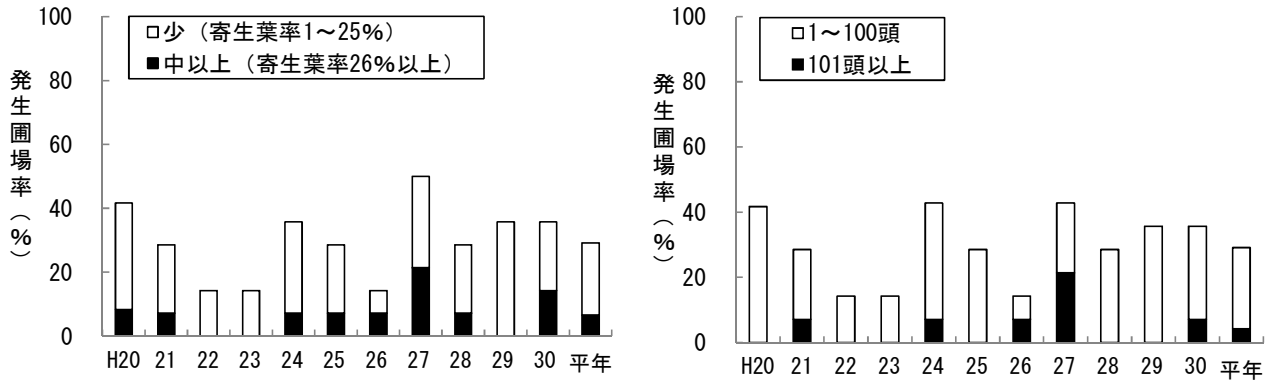


図3 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左: 寄生葉率、右: 寄生虫数/80葉中、8月下旬)

5 リンドウホソハマキ

(1) 8月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は平年並、生長部および茎部の被害発生圃場率は平年よりやや低かった(図4)。

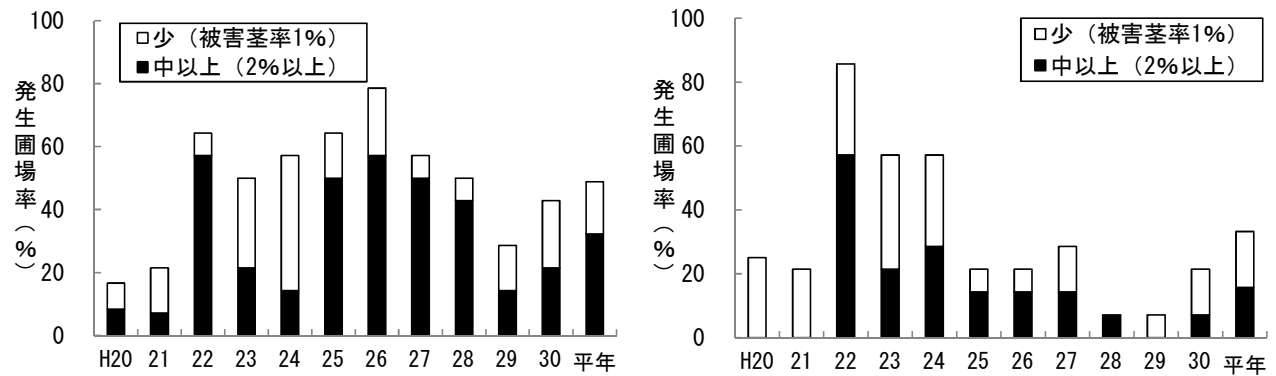


図4 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左: 潜葉痕、右: 生長部・茎部、8月下旬)

6 アザミウマ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図5)。

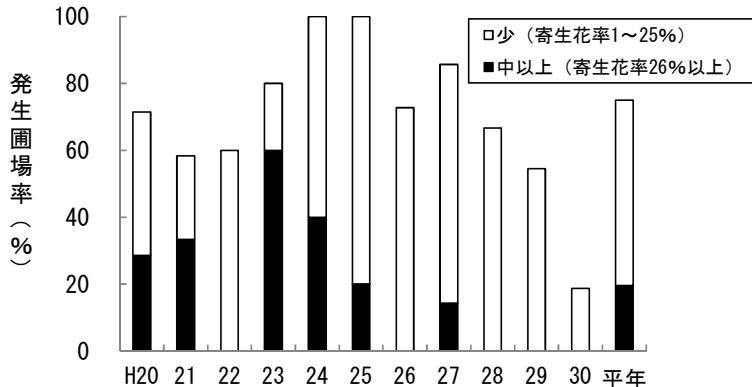


図5 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。